



NEC Expressサーバ・ワークステーション
Express5800シリーズ

エクスプレス通報サービス

インストレーションガイド

商標について

ESMPROは日本電気株式会社の登録商標です。

EXPRESSBUILDERは日本電気株式会社の商標です。

Microsoftとそのロゴおよび、Windows、Windows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

Windows NTはMicrosoft® Windows NT® Server network operating system version 3.51/4.0およびMicrosoft® Windows NT® Workstation network operating system version 3.51/4.0の略称です。

サンプルアプリケーションで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

はじめに

このたびは、NECのExpress5800シリーズサーバ・ワークステーションをお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

本書はエクスプレス通報サービスを導入するにあたり、必要となるセットアップの手順について説明します。

このエクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITool)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント/サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています(詳細については、2ページの「PC通報連携機能」をご覧ください)。

Expressシリーズ本体の持つ機能を最大限に引き出すためにも、ご使用になる前に本書をよくお読みになり、ユーティリティを正しくお使いになるようお願い申し上げます。

本文中の記号について

本文中では次の3種類の記号を使用しています。それぞれの意味を示します。



重要

ユーティリティや装置を取り扱う上で守らなければならない事柄や特に注意すべき点を示します。



チェック

ユーティリティや装置を取り扱う上で確認をしておく必要がある点を示します。



ヒント

知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

ソフトウェア使用条件

添付のCD-ROM内のソフトウェアを使用するにあたって、添付の「ソフトウェアのご使用条件」をお読みになり、その内容についてご確認ならびにご承諾ください。

ユーザーサポートについて

ソフトウェアに関する不明点や問い合わせは別冊の「ユーザーズガイド」に記載されている保守サービスセンターへご連絡ください。また、インターネットを使った情報サービスも行っておりますのでご利用ください。

<http://www.express.nec.co.jp/>

Express5800仮想店舗『夜の58番街』：製品情報、Q&Aなど最新Express情報満載！

<http://www.nefs.co.jp/>

NECフィールドサービス(株)ホームページ：メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介します。

インストールの前に

ここでは、エクスプレス通報サービスをインストールする前に知っておいていただきたい事柄について説明します。

動作環境

エクスプレス通報サービスのセットアップに必要な環境は次のとおりです。

- ハードウェア

- メモリ 6.0MB以上
- 固定ディスクの空き容量 2.0MB以上
- モデム(ダイヤルアップ経由の通報を使用する場合、モデム(2ページ参照)が必要)
- メールサーバ(電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要)

- ソフトウェア

- Microsoft® Windows NT® operating system Version 3.51/4.0日本語版(Server/ Workstation)
- ESMPRO/ServerAgent Ver.3.1、3.2、3.3、3.4

利用に必要な契約

エクスプレス通報サービスは本体装置の「ハードウェア保守契約(またはエクスプレス通報サービスのみの契約)を結ばれたお客様のみ利用できます(契約内容の詳細については、購入された販売店にお問い合わせください)。

インストールに必要なもの

インストールやセットアップのときには、契約成立後に送付される「通報開局フロッピーディスク」が必要です。「通報開局フロッピーディスク」が到着してからセットアップしてください。

PC通報連携機能

「PC通報連携機能」は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報するサービスのことです。このサービスを使用することにより、クライアントの障害を事前に察知したり、障害発生時にすみやかに保守したりすることができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「クライアント監視機能(18ページ)」を参照してください。

また、別途PC通報連携機能での契約が必要となりますので、ご購入になった販売店または保守員にお問い合わせください。

注意事項

- アンインストールについて

エージェント(ESMPRO/ServerAgent)をアンインストールするには、前もってエクスプレス通報サービスをアンインストールしてください。

- モデムについて

ダイヤルアップ経由エクスプレス通報で使用するモデムは以下のものをご利用ください。

ダイヤルアップ経由エクスプレス通報用指定モデム(以下のいずれか)：

COMSTARZ MULTI 144II、288、336、560、560II

- クライアント監視機能について

クライアントの動作(未動作・動作中)は、エクスプレス通報サービスクライアント設定ユーティリティ起動時に行います。クライアントの動作状況の変更をされた場合、一度設定ユーティリティを終了して再起動してください。

クライアントにバージョン5.1以上のDMIToolがインストールされていることを確認してください。以前のバージョンをお使いの場合はアップデートしてください。

インストール/アンインストール

エクスプレス通報サービスをインストールするには、ESMPRO/ServerAgent(以下「ServerAgent」と呼ぶ)がインストール済みですべての設定が終わっていない必要があります。



ヒント

ServerAgentのインストールや設定については、別冊の「ユーザーズガイド」およびServerAgentのオンラインヘルプを参照してください。

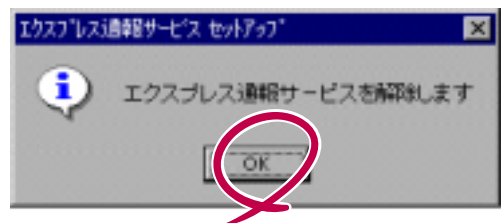
インストール

以下の手順に従ってインストールを行います。



重要

インストールの途中で[終了]ボタンを押して終了すると、右のようなメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックして、インストール途中で設定された内容が解除されるまで待ってください。



- 1 装置本体の電源をONにして、Windows NTを起動する。
- 2 EXPRESSBUILDER CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

マスターコントロールメニューが表示されます。

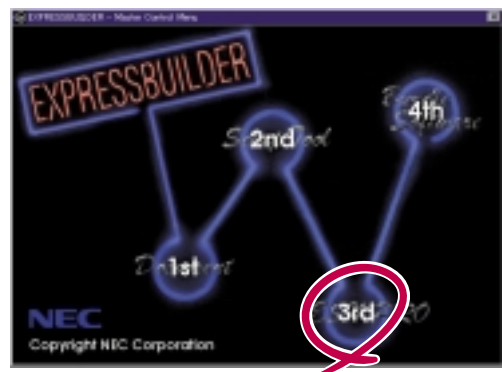


重要

Windows NT3.51のときは「マスターコントロールメニュー」が表示されません。CD-ROM内のディレクトリ「esmpro」の中にある「Setup.bat」をファイルマネージャなどから起動してください。起動後、手順4に進んでください。

- 3 [ESMPRO]をクリックする。

統合セットアップメニューが表示されます。



4 [関連ユーティリティのメニューへ]をクリックする。

[関連ユーティリティメニュー]が表示されます。

5 [エクスプレス通報サービス]をクリックする。

[エクスプレス通報サービスセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。

6 [続行]ボタンをクリックする。

[Alert Managerインストーラ]ダイアログボックスが表示され、インストールが開始されます。

インストールは、次のような順番で行われます。

- ① 「環境の調査」
- ② 「サービスの停止」
- ③ 「ファイルのコピー」
- ④ 「レジストリ情報の設定」
- ⑤ 「サービス情報の登録」
- ⑥ 「環境情報の設定」

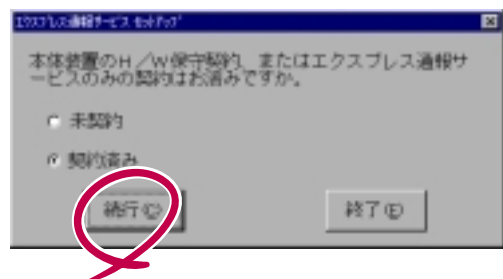
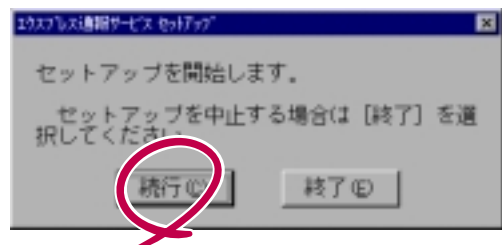
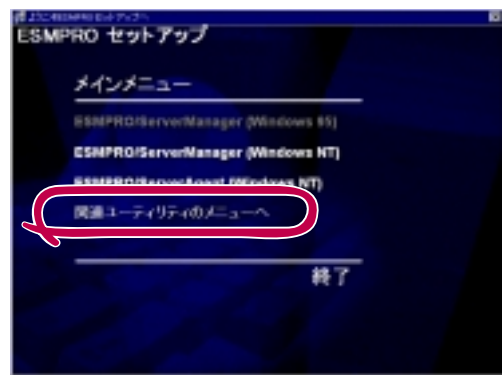
インストールを完了すると、エクスプレス通報サービスの概要が表示されます。

7 [続行]ボタンをクリックする。

8 [契約済み]をクリックして[続行]ボタンをクリックする。

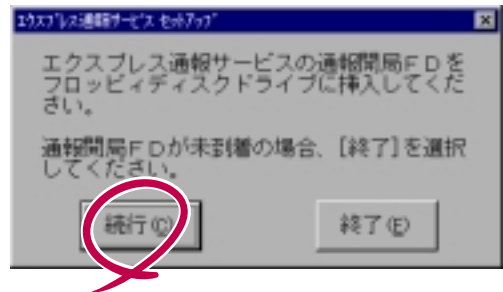
契約を済ませていないときは、[未契約]をクリックしてから[続行]ボタンをクリックしてセットアップを終了してください。

<表示例>



9 「通報開局フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットして、[続行]ボタンをクリックする。

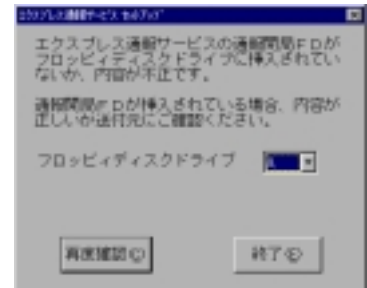
「通報開局フロッピーディスク」が到着していないときは、[終了]ボタンをクリックして、セットアップを終了してください。「通報開局フロッピーディスク」が到着してからセットアップしてください。



- 「通報開局フロッピーディスク」の読み込みに失敗すると、右のダイアログボックスが表示されます。

このダイアログボックスが表示された原因として次のことが考えられます。

- セットされているフロッピーディスクドライブの指定が異なる
- フロッピーディスクドライブに正しくセットされていない
- フロッピーディスクの内容が不正である



いったん「通報開局フロッピーディスク」を取り出して、正しくセットし直した後、フロッピーディスクドライブを正しく指定して[再度確認]ボタンをクリックしてください。

それでも同じダイアログボックスが表示されたときは、[終了]ボタンをクリックして終了してください。その後に「通報開局フロッピーディスク」が正しいかどうか最寄りの販売サービス拠点へお問い合わせください。

- 「通報開局フロッピーディスク」を契約されたサーバ以外で使用すると右のダイアログボックスが表示されます。

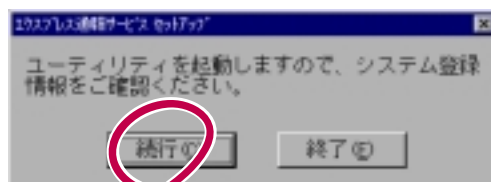


正しい「通報開局フロッピーディスク」があるときは、[終了]ボタンをクリックしていったん終了した後、正しい「通報開局フロッピーディスク」を使用してセットアップをしてください。

契約後にサーバ名称を変更したときは、[続行]ボタンをクリックしてください。

10 [続行]ボタンをクリックする。

エクスプレス通報サービス設定ユーティリティが起動します。



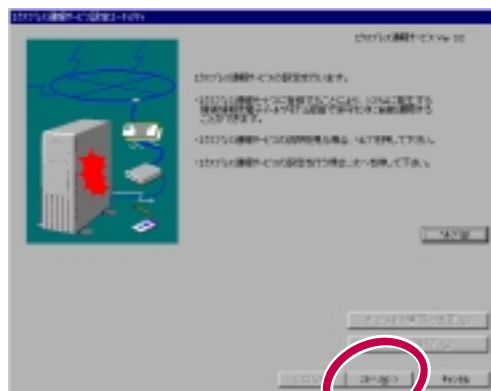
ヒント

ユーティリティの詳細な使用方法是「エクスプレス通報サービス設定ユーティリティ(9ページ)」またはヘルプを参照してください。

11 [次へ]ボタンをクリックして、登録内容を確認する。

画面に表示される「通報開局フロップディस्क」の設定内容を確認してください。

設定内容が異なるときや未設定項目があるときは設定内容を変更してください。

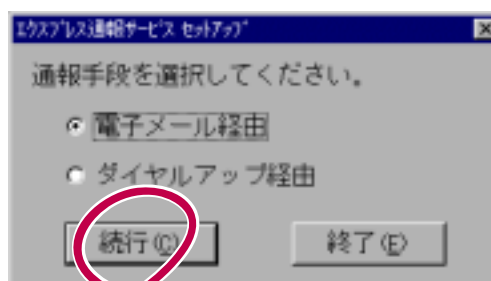


12 すべての内容を確認したら、[完了]ボタンをクリックする。

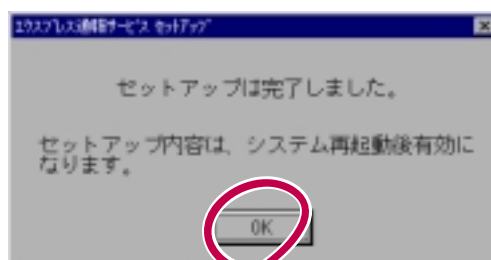
13 通報手段を選択した後、[続行]ボタンをクリックする。

システムの予防保守情報を電子メール経由で保守センターに自動通報するときは、[電子メール経由]を選択してください。

ダイヤルアップ経由で保守センターに自動通報するときは、[ダイヤルアップ経由]を選択してください。



14 [OK]ボタンをクリックする。



15 システムを再起動する。

エクスプレス通報サービスの機能はシステムの再起動後に有効になります。

アンインストール

エクスプレス通報サービスの削除は、次のようにします。



重要

ServerAgentを削除するときはエクスプレス通報サービスを先に削除してください。

- 1 装置本体の電源をONにして、Windows NTを起動する。
- 2 EXPRESSBUILDER CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

マスターコントロールメニューが表示されます。



重要

Windows NT3.51のときは「マスターコントロールメニュー」が表示されません。CD-ROM内のディレクトリ「esmpro」の中にある「Setup.bat」をファイルマネージャなどから起動してください。起動後、手順4に進んでください。

- 3 [ESMPRO]をクリックする。
- 4 [関連ユーティリティのメニューへ]をクリックする。

統合セットアップメニューが表示されます。

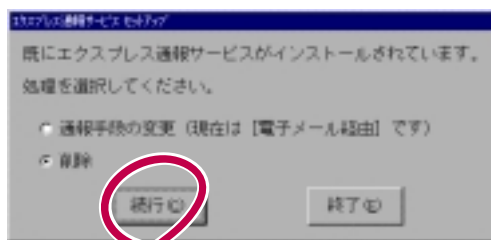
[関連ユーティリティメニュー]が表示されます。

- 5 [エクスプレス通報サービス]をクリックする。

[エクスプレス通報サービスセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。

- 6 [削除]を選択して[続行]ボタンをクリックする。

[エクスプレス通報サービス]を削除する確認のダイアログボックスが表示されます。



- 7 [続行]ボタンをクリックする。

アンインストールを開始します。
完了すると、削除終了のダイアログボックスが表示されます。



- 8 [OK]ボタンをクリックして終了する。

セットアップ

エクスプレス通報サービスをインストールした後、設定を変更するときの手順を説明します。

保守センターへの通報手段の変更

保守センターへの通報手段の変更は、次のとおりです。

- 1 装置本体の電源をONにして、Windows NTを起動する。
- 2 EXPRESSBUILDER CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

マスターコントロールメニューが表示されます。



Windows NT3.51のときは「マスターコントロールメニュー」が表示されません。CD-ROM内のディレクトリ「esmpro」の中にある「Setup.bat」をファイルマネージャなどから起動してください。起動後、手順4に進んでください。

- 3 [ESMPRO]をクリックする。

統合セットアップメニューが表示されます。

- 4 [関連ユーティリティのメニューへ]をクリックする。

[関連ユーティリティメニュー]が表示されます。

- 5 [エクスプレス通報サービス]をクリックする。

[エクスプレス通報サービスセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。

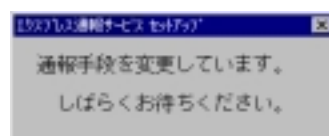
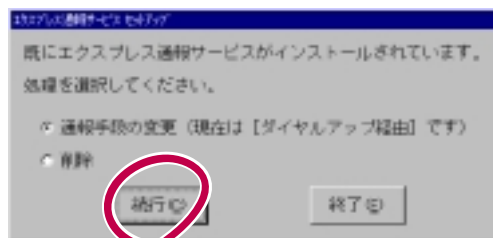
- 6 [続行]ボタンをクリックする。

- 7 変更したい通報手段を選択してから
[続行]ボタンをクリックする。

- 8 通報手段の確認に対して誤りがなければ[続行]をクリックする。

通報手段の変更終了のダイアログボックスが表示されます。

- 9 [OK]ボタンをクリックして終了する。



エクスプレス通報サービス設定ユーティリティ

エクスプレス通報サービス設定ユーティリティは、インストール時に「通報開局フロッピーディスク」の内容を確認するために使用します。またインストール後も設定内容の変更やサービスの終了に使用します。

インストール後は、アラートマネージャ設定ツールの[ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]をクリックして設定してください。

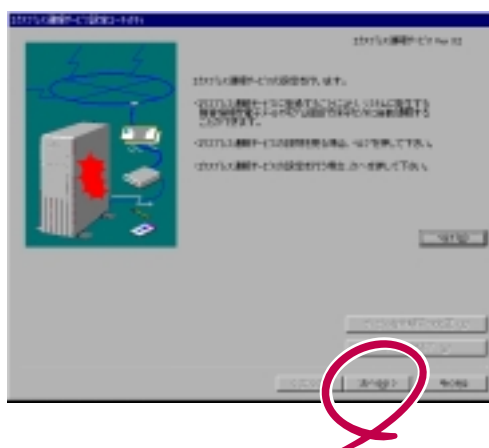


ヒント

最初のダイアログボックスではエクスプレス通報サービスの適用期間を延長させる[サービス有効期限の変更]ボタン、サービス開始後にサービスの終了を行う[サービスの終了]ボタンがあります。詳しくは、「エクスプレス通報サービスの終了(17ページ)」を参照してください。

1 [次へ]ボタンをクリックする。

お客様情報の設定ダイアログボックスが表示されます。



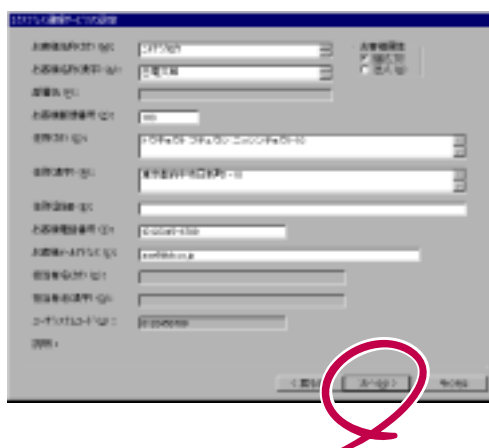
2 お客様に関する情報を入力する。

各項目のエディットボックスをマウスでクリックすると、設定画面下部にガイドメッセージが表示されます(これは以降の画面でも同様です)。



ヒント

お客様が個人で契約されているときは、部署名と担当者名は入力できません。



3 [次へ]ボタンをクリックする。

サーバ本体情報の設定画面が表示されます。

- 4 サーバ本体に関する情報を入力する。
- 装置コードは一覧から選択できますが、直接入力することもできます。

- 5 [次へ]ボタンをクリックする。
- オプション装置情報の設定画面が表示されます。

- 6 オプション装置情報を入力する。
- リストから装置を選択して[削除]ボタンをクリックすると、その装置の情報を削除します。

[追加]ボタンをクリックすると装置情報を追加します。

- 7 [次へ]ボタンをクリックする。
- 本体を購入した販売店情報の設定画面が表示されます。

- 8 本体を購入した販売店情報を入力する。
- 販売店名は一覧から選択できますが、直接入力することもできます。

- 9 [完了]ボタンをクリックする。
- ユーティリティを終了します。

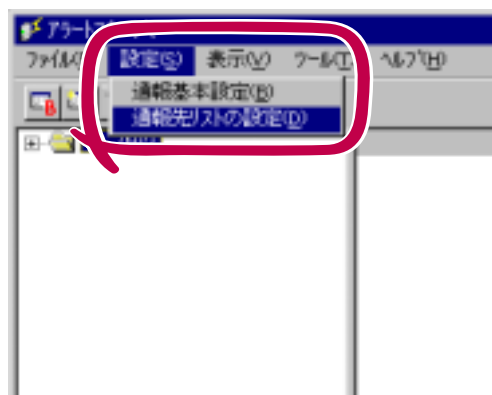
電子メールを使った通報の設定

電子メールを利用してエクスプレス通報サービスを行うときは、次のようにしてインターネットメール通報の設定をしてください。

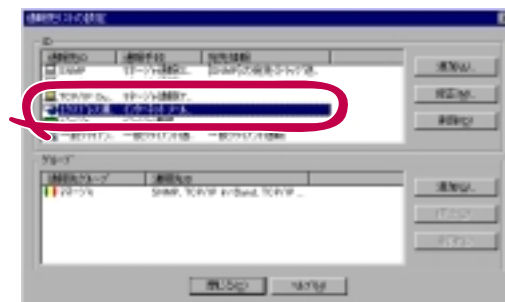
1 コントロールパネルのESMPRO/ServerAgentのアイコンをダブルクリックする。

2 [全般]プロパティから[通報設定]ボタンをクリックする。

3 アラートマネージャの[設定]メニューから[通報先リストの設定]をクリックする。



4 通報先IDリストから[エクスプレス通報サービス]をクリックして、[修正]ボタンをクリックする。



5 [宛先設定...]ボタンをクリックする。

[エクスプレス通報の設定]ダイアログボックスが表示されます。

6 メールサーバの設定を行うためにまず[基本設定]ボタンをクリックする。

[インターネットメール通報の基本設定]ダイアログボックスが表示されます。



- 7 「メールサーバ(SMTP)」にSMTPが動作しているメールサーバのホスト名またはIPアドレスを入力する。

例)「Zzz.Com」または
「255.255.255.255」のように入力します。



- 8 「電子メールアドレス」に送信者の電子メールアドレスを入力する。

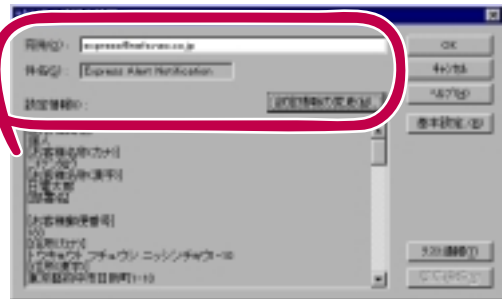
例)「abc@Zzz.Com」のように入力します。

- 9 [OK]ボタンをクリックする。

[エクスプレス通報の設定]ダイアログボックスに戻ります。

- 10 宛先と設定情報を確認する。

宛先には「通報開局フロッピーディスク」に設定されているメールアドレスが表示されています。問題がなければ変更しないでください。



- 11 エクスプレス通報サービスの設定情報を変更する場合は[設定情報の変更]ボタンをクリックする。

エクスプレス通報サービス設定ユーティリティ(9ページ)が起動されます。設定を変更してください。
設定を完了すると[エクスプレス通報の設定]ダイアログボックスに戻ります。

- 12 [テスト通報]ボタンをクリックする。

- 13 テスト通報の結果送付先を選択して、
[OK]ボタンをクリックする。

確認メッセージが表示されます。



- 14 [OK]ボタンをクリックする。

テスト通報をします。



テスト通報完了後は、手順13で指定した結果送付先へのメールまたはファクシミリの到着をお待ちください。テスト通報の結果を確認した後で、開局通報をしてください。

- 15 [開局通報]ボタンをクリックする。

[開局通報]ボタンは、テスト通報した後にクリックできるようになります。
開局通報が完了した時点でエクスプレス通報サービスが開始されます。

- 16 [スケジュール...]ボタンをクリックする。

- 17 通報リトライの設定、通報時間帯の設定を行う。

初期値は、5分間隔で72時間後までのリトライ、24時間通報可能になっています。
この値は推奨値です。通常、変更する必要はありません。

- 18 設定を終えたら[OK]ボタンをクリックする。

- 19 アラートマネージャの[設定]メニューから[通報基本設定]をクリックする。

- 20 [通報手段の設定]プロパティの通報手段リストにある[インターネットメール通報]の通報有効/無効ビットマップを有効(緑色)にする。



ヒント

アラート通報機能の設定は、『ServerAgent ヘルプ』および『アラートマネージャ ヘルプ』を参照してください。

ダイヤルアップ経由で通報する設定

モデムを使用したダイヤルアップを利用してエクスプレス通報サービスを開始するための設定手順について説明します。

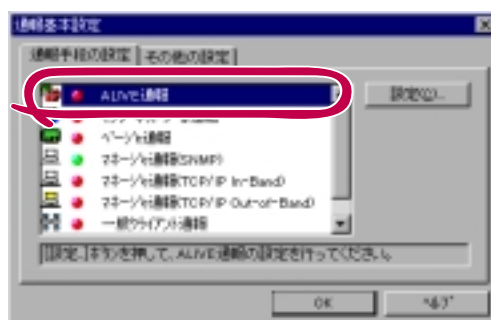
- 1 コントロールパネルのESMPRO/ServerAgentのアイコンをダブルクリックする。
- 2 [全般]プロパティから[通報設定]ボタンをクリックする。
- 3 エクスプレス通報サービスの設定情報を変更したいときはアラートマネージャの[ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]をクリックする。

エクスプレス通報サービス設定ユーティリティ(9 ページ)が起動されます。設定を変更してください。

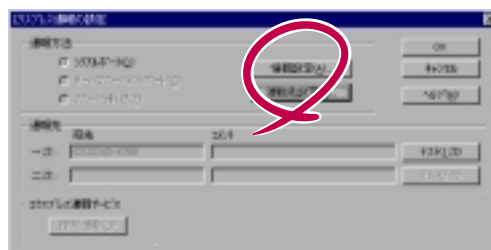
- 4 アラートマネージャの[設定]メニューから[通報基本設定]をクリックする。

- 5 [通報手段の設定]プロパティの通報手段リストから[ALIVE通報]をクリックし、[設定]ボタンをクリックする。

[エクスプレス通報の設定]ダイアログボックスが表示されます。



- 6 [情報設定]ボタンをクリックする。



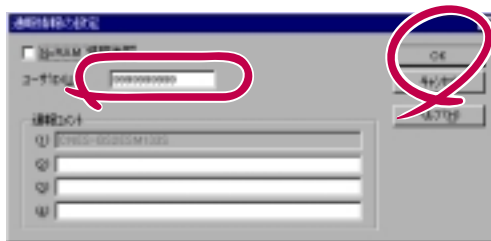
- 7 ユーザID(ユーザシステムコード)を確認する。

必要であれば通報コメントを入力してください。



ヒント

本体NvRAMが搭載されている機種の場合、[NvRAM情報参照]チェックボックスをオンにすることでオフライン保守ユーティリティの設定を参照することができます。



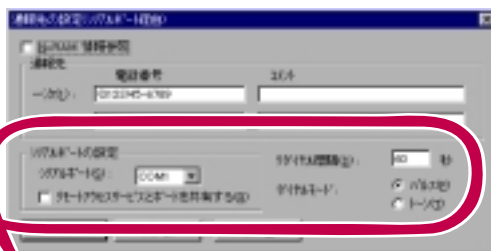
- 8 [OK]ボタンをクリックする。

[エクスプレス通報の設定]ダイアログボックスに戻ります。

- 9 通報方法でシリアルポートを選択して、[通報先設定]ボタンをクリックする。

電話番号(一次)は「通報開局フロップィディスク」に設定されている電話番号を表示しています。問題なければ変更しないでください。

- 10 モデムが接続されているシリアルポートやモデムの設定を行う。



ヒント

本体NvRAMが搭載されている機種の場合、[NvRAM情報参照]チェックボックスをオンにすることでオフライン保守ユーティリティの設定を参照することができます。

- 11 [OK]ボタンをクリックする。

[エクスプレス通報の設定]ダイアログボックスに戻ります。

- 12 [テスト通報]ボタンをクリックする。

確認メッセージが表示されます。

- 13 [OK]ボタンをクリックする。

テスト通報をします。

14 [開局通報]ボタンをクリックする。

[開局通報]ボタンは、テスト通報した後にクリックできるようになります。開局通報が完了した時点でサービスが開始されます。

15 [OK]ボタンをクリックする。

[通報手段の設定]プロパティに戻ります。

16 [通報手段の設定]プロパティの通報手段リストにある[ALIVE通報]の通報有効/無効ビットマップを有効(緑色)にする。



ヒント

アラート通報機能の設定は、『ServerAgent ヘルプ』および『アラートマネージャ ヘルプ』を参照してください。

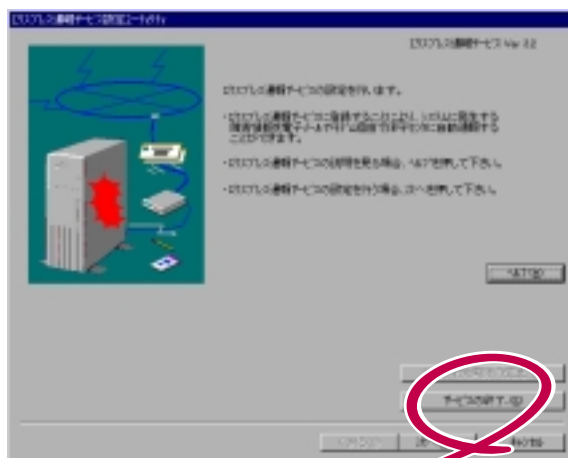
エクスプレス通報サービスの終了

エクスプレス通報サービスを開始すると、エクスプレス通報サービス設定ユーティリティ(9 ページ)の[サービスの終了]ボタンがクリックできるようになります。



[サービスの終了]をクリックしてエクスプレス通報サービスを終了していないと、保守サービスセンターへの通報が続けられます。契約期間が終了していると、課金上問題となりますので、契約を更新しないときは、速やかにサービスを終了させてください。

エクスプレス通報サービスを終了するときは、[サービスの終了]ボタンをクリックします。以降、アラート通知は行われなくなります。



エクスプレス通報サービスが終了すると、画面左下にエクスプレス通報が終了していることを知らせるメッセージが表示され、[サービス有効期限の変更]ボタンがクリックできるようになります。

サービスの有効期限 : サービスは終了しています。

サービスを再開するためには、[サービス有効期限の変更]ボタンをクリックして期限延長キーを入力してください。期限延長キーは契約更新を行うと入手できます。

クライアント監視機能

ここでは、クライアント監視機能について説明します。

利用に必要な契約

クライアント監視機能はクライアント装置のハードウェア保守契約を結ばれたお客様の場合、無料で利用できます(契約内容の詳細については、購入された販売店にお問い合わせください)。

インストールに必要なもの

インストールやセットアップのときには、クライアント装置のハードウェア保守契約成立後に送付される「通報開局フロッピーディスク」が必要です。「通報開局フロッピーディスク」が到着してからセットアップしてください。

インストール

通常のエクスプレス通報サービスのインストール方法に従ってインストールを行えばクライアント監視機能のインストールも行います。

クライアントへのDMIToolのインストール

設定ユーティリティでエクスプレス通報サービスクライアント監視機能の設定を行う前に、クライアント装置にDMIToolがインストールされている必要があります。お客様のお持ちのクライアントにバージョン5.0以前のDMIToolがインストールされている場合、バージョン5.1以上のDMIToolにアップデートする必要があります。

DMIToolのアップデートについては、CD-ROMの次のディレクトリに格納してあるセットアップカードを参照してください。

ESMPRO¥I386¥AMEXP¥ExPC¥Document

DMI_UP.RTF : クライアント側システム監視サービス(DMITool) アップデート手順書

特にハードウェア保守契約があるクライアントについては、バージョン5.1のDMIToolのインストールを完了した状態で電源をONにして設定ユーティリティを起動してください。これは、設定ユーティリティの初回起動時にハードウェア保守契約があるクライアントの設定を行う必要があるからです。

クライアント設定ユーティリティ

エクスプレス通報サービスクライアント設定ユーティリティでは、クライアント監視機能に関する設定を行います。設定を行う前に次のことをご確認ください。

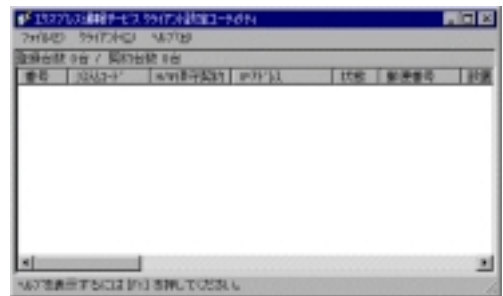


チェック

- サーバとクライアントがネットワークで物理的につながっていることを確認してください。
- ハードウェア保守契約があるクライアントにバージョン5.1のDMIToolがインストールされていて、電源がONになっていることを確認してください。

アラートマネージャ設定ツールの[ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]-[クライアント]を選択して設定を行ってください。

右の図は、設定ユーティリティを起動した画面です。初期状態ではクライアントは一台も登録されていません。

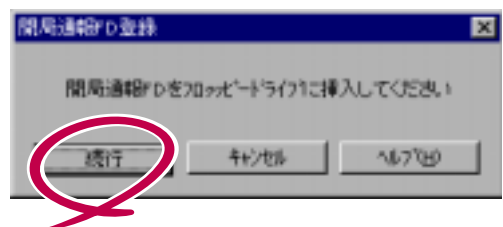


通報開局フロッピーディスクの読み込みとクライアントの追加

最初に行う作業は、「開局通報フロッピーディスクの読み込み」です。

- 1 [ファイル]メニューの[通報開局フロッピーディスクの読み込み]をクリックする。
- 2 「通報開局フロッピーディスク」をフロッピードライブにセットして[続行]ボタンをクリックする。

読み込み作業を続けます。



「通報開局フロッピーディスク」に登録されているハードウェア保守契約を結ばれたクライアントが表示されます。（右の図は例です。契約によって、画面に表示される情報は異なります。）

クライアントをコンピュータ名で管理するか、IPアドレスで管理するかによって左から4列目に表示される情報が変わります。

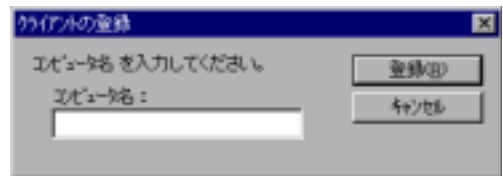


番号	クライアント名	ハードウェア保守契約の有無	コンピュータ名	IPアドレス	連絡先	備考
8001	TEST900801	有	TEST01.DEN70081		連絡先: 180-8008	故障
8002	TEST900802	有	TEST02.DEN70082		連絡先: 180-8008	故障
8003	TEST900803					
8004	TEST900804					
8005	TEST900805					

例の画面では、お客様はクライアント5台分の保守契約をしていて、そのうち2台とハードウェア保守契約を結んでいます。ハードウェア保守契約を結んでいない3台分については、お客様で自由に登録・削除することができます。

クライアントの追加

保守契約を結ばれたクライアントを新たに登録するときは、上記ウィンドウ内の該当する行をマウスなどで選択後、[クライアント]メニューの[クライアントの追加]を選んでください。クライアントをコンピュータ名で管理している場合は、コンピュータ名を入力してください。IPアドレスで管理している場合は、IPアドレスを入力してください。



クライアントの登録

コンピュータ名を入力してください。

コンピュータ名:

登録(Enter) キャンセル



チェック

コンピュータ名・IPアドレスは一意に定まっている必要があります。また、登録するクライアントは、バージョン5.1のDMIToolがインストールされていて、電源がONになっている必要があります。

構成情報の設定

登録したクライアントについての情報を変更するには、画面でクライアントを選択後、[クライアント]メニューの[構成情報の設定]を選んでください。

ハードウェア保守契約があるクライアントのお客様が入力したクライアントかによって変更できる項目が異なります。編集用のボックスが白い項目だけが変更可能です。

障害情報の一括設定

クライアントにどのような障害が起こったときに通報するかを変更することができます。[クライアント]メニューの[障害通報の一括設定]を選んでください。

システム監視のチェックボックスのチェックが無い場合、通報はしません。システム監視のチェックボックスのチェックをした場合のみ通報を行います。

システム監視にチェックをした時に他のチェックを一切していなくてもディスクSMART監視と筐体開閉監視を行います。

メモリ監視にチェックをした場合、スワップ容量監視とECCメモリ監視の2つを行います。

[OK] ボタンをクリックすると設定を始めます。登録されていて電源がONになっているすべてのクライアントに設定を行うため数分以上かかる場合があります。

クライアントの削除

お客様が登録されたクライアントは登録の削除をすることができます。画面でクライアントを選択後、[クライアント]メニューの[クライアントの削除]を選んでください。

アンインストール

クライアント監視機能のみのアンインストールは行えません。エクスプレス通報サービスをアンインストールしてください。